

[野球] プロ野球ドラフト

最高の舞台へ 3選手に期待

長谷川勇也がソフトバンクから5巡目指名

11月21日に行われたプロ野球の大学・社会人ドラフト会議で、長谷川勇也(商4・酒田南高=外野手)が福岡ソフトバンクホークスの5巡目で、松本哲也主将(経営4・山梨学院大附高=外野手、11面参照)が読売ジャイアンツの育成ドラフト3巡目でそれぞれ指名された。

1部復帰を牽引した4年次生がプロの世界へ進む。長谷川は秋季リーグ戦で打率3割9分・6本塁打・12打点の成績を残し、1年次からの通算打率でも3割以上を残した強打者。今秋は安打16本のうち6本が本塁打と、長打力を見せた。遠投115メートル、50メートル走6秒1と身体能力も高い。

松本主将は「読売」-育成ドラフト3巡目 走力、守備力アピール

松本主将の魅力は走力と守備力だ。特に俊足と強肩を生かした守備はプロ級と評されている。今秋は打率3割1分7厘・3本塁打と打撃力も向上。加えて1部に導いた主将として、統率力も期待される選手だ。

指名後の会見で長谷川は「ホークスは毎年プレーオフに進出するチーム。指名されて光栄です。自分の持ち味はバッティングですが、守備や足もアピールしていきたい。目標はイチロー選手(シアトルマリナーズ)。試合に対する準備を大切にするイチロー選手の姿勢を手本にしたい」と話し、松本主将は「ジャイアンツはプロ野球界の中でも伝統あるチーム。上のレベルでプレー出来ることはうれしい。自分の魅力は足と守備。赤星憲広選手(阪神タイガース)のような選手を目指したい。育成卒なので、1日も早く支配下選手登録をされるように頑張りたい。はい上がっていく気持ちでいつか必ず上にいきます」と語った。

芹沢さんも「読売」へ

野球部OBで、社会人野球のシダックスでプレーしていた芹沢明さん(内野手)も読売ジャイアンツの育成ドラフト5巡目で指名された。

プロという最高の舞台へ進む3人にエールを送りたい。

(文・写真とも 田口 能成・経済2)



▲1軍での活躍が期待される長谷川



▲指名あいさつに訪れた球団関係者と(中央が長谷川)



▲自慢の俊足と守備が魅力の松本



芹沢明さん

[ボクシング] ライトウェルター級

川内全日本アマ優勝 国体と2冠

昨年のウェルター級に続き2階級制覇

全日本アマチュアボクシング選手権が11月15日から19日まで、秋田県の男鹿市若美総合体育館で行われ、川内将嗣(商3・龍谷高)がライトウェルター級で見事優勝に輝き、技能賞も受賞。国体に次いで2つ目のタイトルを獲得した。

昨年は、ウェルター級で優勝を果たしており、これで2階級での優勝を達成したことになる。川内は「本来の階級であるライトウェルター級で優勝出来てホッとした。国体では足を使えず苦勞したが、今回は足を使う自分のボクシングが出来た」と振り返り、「今後は全日本合宿等があるが、すべてを確実にこなしたい。来年から始まる北京オリンピックアジア予選を突破し、本大会出場を目指したい」と目標も語った。

(文・写真とも 田口 能成・経済2)



▲2年連続2冠に輝いた川内

[バドミントン] 全日本学生

木村・梨木ペア3位 井上はベスト8

全日本学生バドミントン選手権が10月28日から11月2日まで、京都市立体育館で行われた。女子ダブルスで木村綾(経営3・金沢向陽高)・梨木春花(商3・金沢向陽高)ペアが3位入賞を果たし、同シングルスで井上春奈(商1・埼玉栄高)がベスト8入りした。

木村・梨木ペアは準々決勝まですべて2-0と、相手を寄せ付けない試合展開で勝ち進んだが、準決勝で今大会を制した小椋・浅原ペア(日体大)に敗れた。

井上は1、2回戦を順調に勝ち進み、3、4回戦はともにフルセットまでもつれるが競り勝ち、ベスト8に進出。木村・梨木ペアとともに全日本総合選手権への出場権を獲得した。

全日本総合選手権(11月14～19日、駒沢体育館)では、本戦から出場の木村・梨木ペアが2-0でトーナメント初戦を突破し、ベスト16入り。また、井上は予選2回戦で破れ、本戦出場はならなかった。

(松原 弘和・法1)